



バレンタインディには少々遅いけれど、ポーポキは愛を送ります。あなたの人生には既に愛がたくさんあり、これはほんの少しの足しであるように願っています。

Popoki's Hot News!



NEW! ポーポキ友情物語 in 大槌町報告会
4月7日 19:00～ 会場:神戸学生青年会館
参加費:無料 本号14ページをご参照



ポーポキのミニ平和映画祭
時:5月13日 14:00～16:00 場所:神戸 YMCA
新しくオープンする会場も見学できます!
参加費:無料 詳しくは本号 ページへ。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちの*シィウィにゃん*は、次の「一言の平和」を送ってくれました。

「家族と離れて暮らすのは簡単なことではありません。息子たちに電話するたびに胸が痛む。けれども、彼らが笑ったり、時には泣いたりしているときでも彼らの声を聞くだけで私は平和な気持ちになります。ポーポキに言われるまで、平和について考えたことはありませんでした。ポーポキ、ありがとう。」



ポーポキ友情物語 IN 大槌 2017.2.3-5

やこにゃん、シィウィニャン、プトリニャン、レイザニャン



2017年2月3日より5日まで、ポーポキ・ピース・プロジェクトは岩手県の大槌町に行かせていただきました。今回のメンバーは、シィウィニャン、プトリニャン、レイザニャン、やこにゃん、さとにゃん、ろにゃんの6名です。私たちにとって、この訪問は感銘深く、本当に多くのことを学ぶことができました。

なによりもまず、私たちは大槌の人々に対して、あたたかく私たちを迎えてくれてありがとうございますと感謝の気持ちを述べたいです。私たちはこの経験を忘れずに、家族、友人、またほかの人々と話し合っていきます。このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。

スケジュール

◆ 1日目

- ・伊藤陽子さんによるガイダンス（写真・動画鑑賞）
- ・伊藤陽子さんによる大槌ツアー
（シィウィニャン、プトリニャン、レイザニャン、ろにゃん）
- ・仮設住宅訪問（やこにゃん、さとにゃん）
- ・SHAKE HAND への参加（しゃけ=SHAKE ということでデコレーション鮭を作り、それによる交流と支援。<https://www.facebook.com/tda.shakehand/>）

◆ 2日目

- ・マストでの展示

◆ 3日目

- ・マストでの展示
- ・もちにゃんによる大槌ツアー
- ・「つどい」事務所にて伊藤さんともちにゃんとのふりかえり
- * 今月号にやこにゃん、シィウィニャンとさとにゃんのレポートを、そ s h ちえ来月はほかのメンバーのレポートを掲載します。

～1日目～

私たちは2月3日の早朝に大槌町に到着しました。私は以前神戸でお会いして大槌町とそこでの活動について教えていただいた、もちにゃんと再会しました。もちにゃんは私たちを車で「つどい」の事務所に連れて行ってくれました。私たちはそこで一休みして、朝ご飯をいただきました。もちにゃんはおいしいワカメのおみそしるをごちそうしてくれました。もちにゃんのおもてなしで、私たちは心も体もほっこりしました。

朝食後、私たちは伊藤陽子さんに大槌について教えていただきました。伊藤陽子さんは写真家で、大槌をもう何十年も撮り続けています。伊藤さんは、まず、東日本大震災前の大槌の写真を見せてくれました。大槌の町は優しく、どこか懐かしく見えました。ですが、この町がなくなってしまったのだということを思うと、心地よい時間は去り、さびしさがどっと心に押し寄せました。その後、伊藤陽子さんは震災後の動画と写真を見せて説明してくれました。波が家や店や道路をのみこんでいきました。私たちは動画を茫然として見つめました。私はまた大槌の大火災について知りました。伊藤さんが撮られた溶けた信号機の写真があり、その信号機はまるで粘土で作られたかのように、赤、黄、緑の縞になってたれ下がっていました。これらの写真を見て、悲しく泣きくなりました。伊藤陽子さんがおっしゃるには、震災時の大槌は被害がひどすぎてメディアが入ってくることができなかったということです。そのため、報道されないままに失われてしまいました。伊藤陽子さんは、もっと多くの人々に大槌で何が起こったか、また今の大槌はどのようなものであるかを知ってもらいたいと願っています。

このあと、私は大槌の仮設住宅を訪問させていただきました。その仮設住宅は田んぼの中にありました。集会所には、私、さとにゃんと4人のサポート・スタッフを含む総勢14名の人々が集まっていました。全員が女性の方でしたが、昼食後、男性スタッフが来てくれ、また、参加者のだんなさまがおくさまを迎えに来られました。大部分の参加者はご高齢の方でした。私たちは巻きずしを作りました。地元の方がここの豆まきをみせてくれました。美しく神聖な儀式に、清められた気分になりました。それから、巻きずしを美味しくいただきました。さとにゃんは節分の習慣や冬を健康を過ごす方法についてお話ししてくれました。一方で、資金の問題でまだガスを使用できない集会所もあるということを聞きました。このような温かい集いの場が、一刻も早く、それを必要としている人々のところまで行きわたるようにと願います。

午後は、「おおつち おばちゃんくらぶ」主催の SHAKE HAND のワークショップに参加しました。「おおつちおばちゃんくらぶ」は、手芸でのコミュニケーションを通じて、大槌町と他の地域をつなぐ活動を行っています。私たちは「おおつち おばちゃんくらぶ」の方々に手伝っていただいて、手の平サイズの「ヌード鮭」に飾りつけをしました。とても楽しく、できあがったときは本当にうれしく感じました。



この SHAKE HAND のアクティビティは一種の寄付でもあるのですが、「ここ」と「そこ」をつなぐ対話の空間を作り出しているという点で、素晴らしい意義を持ったアイデアだと思います。

その後、マストで会場設営や飾りつけなどのポーポキ友情物語の準備を行いました。マストはショッピング・センターで、今は大槌の中心となっているという話をうかがいました。こうして、充実した長い一日が終わりました。

～2日目～

マストでポーポキ友情物語をさせていただくにあたり、はじめは私はとても緊張していました。大槌に来させていただいたからには、活動してちゃんと成果を残したいという気持ちが空回りしてがちがちになっていました。しかしながら、自分の緊張が他の人々にも伝わり来づらい雰囲気を作っていてよくないということに気づき、反省しました。

本当に幸せなことに、たくさんの大槌の方々や大槌に来られている方々が私たちに会いに来てくださいました。また、たい焼き、ピザ、りんご、いちご、ロールケーキなどのとても多くのおいしいさしいれをいただきました。本当にありがとうございます。いただいたさしいれで、私たちは、おなかいっぱいになり、とてもうれしい気持ちになり、心が和んでリラックスしました。

私たちはポーポキ友情物語の布の展示を行いました。それは、世界中で描かれたもので、平和を希求する思いで満ちていました。これらの布とポーポキ・ピース・プロジェクトの説明をしながら、来ていただいた方々に絵やメッセージを布に描いていただきました。

来ていただいた方々とお話ができて本当にうれしかったです。子どもの方々はとてもかわいく、私たちを元気づけてくれました。大人の方々は、貴重なお話や体験を聞かせてくれました。中には、私たちポーポキのことを覚えてくれていて、「また来てくれてありがとう」と言ってくくださる方々もいらっしゃいました。私たちは本当にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

～3日目～

3日目は日曜日で、マストは買い物をしたりおしゃべりをしたりする人々でにぎやかでした。2日目と3日目の二日間の展示を通じて、たくさんの方々の地元の方々や大槌を訪れた方々がポーポキ友情物語に参加して下さいました。大槌に滞在して私たちは素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。大槌での全ての出会いが私たちの宝物です。紙幅の関係で、ここでは二日間の幾つかのエピソードしか紹介できないのが残念です。



・S 君（6歳の男の子）：彼の絵は細部までそっくりに描かれた鳥居と御神輿の絵でした。おじいさまの話によると、S 君は大槌のお祭りが大好きだそうです。何も見ずに描かれたのが信じられないような、本当に上手で素晴らしい絵でした。S 君生後4カ月のときに震災があり、S 君は両親と今もまだ仮設住宅で暮らしているとのことでした。そう話してくださった S 君のおじいさまは私たちにホタテガイの飾りをプレゼントしてくれました。ありがとうございます。



・埼玉から来た7歳の男の子：大槌に住んでいるおばあさんに会いに来ていと話してくれました。絵が大好きみたいで、鮭、ほたて、さんご、花、ちょう、星とたくさんの色鮮やかな絵を描いてくれました。

・M ちゃん（9歳の女の子）：M ちゃんはおじいさまとおばあさまと一緒にでした。M ちゃんは岩手県に住んでいると教えてくれました。M ちゃんはしっかりしていて、描いた絵について説明してくれました。M ちゃんは、りんご、いちご、ぶどうと、大好きな果物の絵を描いてくれました。

・二人の高校生（16歳の女の子たち）：お二人はシェウィニャン、プトリニャン、レイザニャンと英語で会話していました。英語が得意みたい。すごい！お二人が描いてくれた絵を見て私は胸がいっぱいになりました。お二人の描いた花火やメッセージには、大槌を愛する二人のこれからの大槌を願う気持ちが込められていました。

午後、もちにゃんは S 君が描いてくれた御神輿がある小槌神社に連れて行ってくれました。壮麗な御神輿は、本当に S 君の描いた通りでびっくりしました。その後、もちにゃんは港に行ってくれて、ひょっこりひょうたん島のモデルの島を見せてくれました。島に出会えて感動でした。島の灯台は温かく見えました。また、たくさんの土盛りを見て、復興の難しさを改めて感じました。

夜にふりかえりをしました。大槌の方々にお会いすることができて本当に幸せです。次は大槌に来る時は、大槌の大地を歩きたいです。本当にありがとうございました。



ポーポキ友情物語

日時 2017 年 2 月 3 日～5 日

開催場所 マスト（大槌町）

Siwinyan

一日目

私たちはまず初めに、大槌町で伊藤さんと出会った。彼女は写真と共に彼女の体験した震災の話をしてくれた。そして、見せてくださったビデオでは、大槌町は一般的な小さな町の一つであるが、心のあたたかい市民やおだやかな街の雰囲気があること、そして、当時の道や建物、家などを見て取ることができた。そして、彼女がどれだけその町を愛していたか、その町が消えていくのをどんな気持ちで見ていたかを教えてくれた。その後、震災から 5 年以上経った現在の町の復興の様子をドライブに連れ出し見せてくれた。



大槌町



伊藤さんが震災の話をしていてい
る



広大な大槌町の土地



伊藤さんが現在の町の様子を説明してく
れている



その後、私たちは **Shake Hand** で地元の女性たちと一緒に、サーモンの飾りつけを行った。とても楽しく、一緒に作業することは大変貴重な体験であった。彼女たちはとても優しく、私たちのサーモンをかわいくするのを一緒に楽しんでもくれ、そしてアドバイスなどを出来上がるまでやってくれた。

そして、私たちはその後すぐに次の日の展示会のための準備をしにマストへ向かった。そして、日が暮れる頃にホテルへと戻った。

二日目

私たちは早くからマストへ行き、引き続き準備を進めた。とても楽しく、ボードのいくつかの飾りつけをすることができた。





そして、展示会当日、私たちは布に絵やメッセージを描くブースを任された。最初の参加者は、小さな男の子であった。彼は神社の通りを描いた。その後は、いろんな人が布に描きに来てくれたり、見に来てくれた。大槌町長もまた来てくれ、布にメッセージを書いてくれた。私たちは5時まで行い、ホテルへと戻った。

三日目

私たちが大槌町で過ごす最後の日であり、この日も前日と同じでブースにてメッセージを求めた。この日は、神戸大学の学生も多く参加してくれ、私たちを訪れ、メッセージを書িয়েくれた。展示会の二日目は、前日より多くの参加者でにぎわった。一つの布では足りず、もう一枚の布を用意したほどであった。そして、前日同様5時に終わり、片づけをした。本当に素敵な経験をさせてもらった。ポーポキプログラムに参加させてもらったことに感謝している。ありがとうございました。

忘れられない町、大槌町



2月初め、私たちはポーポキプログラムに参加し、岩手県大槌町を訪れた。大槌町は、2011年3月11日に東日本大震災の被害を大きく受けた町の一つである。私にとって、このプログラムへの参加は、大変貴重な体験となった。そして、短期間の滞在であったが、様々な感情を味わうことができた。最初は、ポーポキプログラムに初めて参加することや、留学して初めて神戸を離れることに対して、楽しい気持ちが大きかった。しかし活動を進めるごとに、楽しい気持ちだけではなくてきたのであった。もちろん、参加させていただくことへの感謝や幸せが気持ちの大部分を占めたが、外国人である私が迷惑をかけてしまうのではないかと不安な気持ちがあったのも確かである。

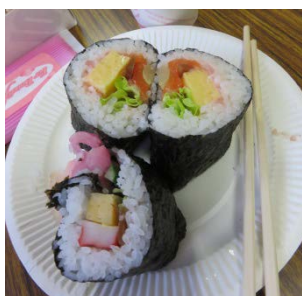
しかし、その不安は次第になくなっていく。大槌町の方々と関わっていくことで、彼らのあたたかさにとっても感動したのである。最初は、日本語をほとんど話すことのできない外国人であることに申し訳なく、私に関わることが大変だろうと思っていた。しかし、大槌町の方々は、大変素晴らしく、そしてあたたかく、私たちを迎え入れてくれた。そして、プレゼントも用意してくれていた。ある方は、文通友達に私を紹介さえしてくれた。私はとても嬉しく、そして彼女の優しさに涙が出る思いであった。



ポーポキは私に素晴らしい経験を与えてくれた。そして、家族や家、友達を持つことの大切さやありがたさを思い出させてくれた。また、大変辛い被害に遭われても立ち上がり前に進もうとする勇気ある大槌町の方々と出会う機会を、ポーポキは与えてくれた。この経験を、私は忘れることはないだろう。



今年も、2月の寒い時（2月2日～5日）に大槌町で友情物語活動を行ってきました。この号では、その活動の中で感じた2つのことを報告します。先ず一つ目は、「節分」。皆さんの家では、節分はどのように迎えますか？関西では一般的に「豆まき・巻き寿司・鰯・柊」だと思っていたのですが、今回小槌町第二仮設住宅の集会所であった、節分行事のお手伝いをしたときに、「東北では恵方巻きなんて聞いたことが無い。」と言われました。でも、そのイベントの中では恵方巻きも一緒に作ったのですが、関西ではどのように作るのかと聞かれました。ここでは、鮭、でんぶ、かにかまぼこ、穴子、とびこ、マグロ、卵焼き、キュウリ、オクラ、レタス、紅ショウガ、かんぴ



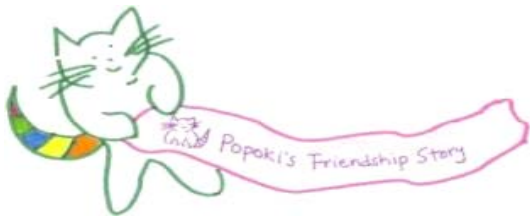
ょうが用意され、みんな好きなように巻きました。元々東北に無かった恵方巻きを恵方に向かってみんなで黙々と食べました。これはコンビニエンスストアの宣伝に寄る効果が大きく、最近では、買ってきた恵方巻きを食べる家も増えてきているそうです。勿論、自分たちで巻いた恵方巻が一番！！ 次に豆まき。「鬼は外 福は内」と言うのかと思いますや「天打ち 地打ち



四方打ち、鬼の目玉をぶつつぶせ～」と恵方に向かって拍手を打ってから巻かれました。このかけ声は、私は初めて聞きました。節分行事は日本中どこでもそんなに変わらないのかと思っていたのですが、そんなことは無いんですね。そして、日本の習慣を変えさせてしまうコマーシャルの力も凄いと思いました。

二つ目は、今年は、マストの1階で友情物語展を行ったのですが、多くの方に「今年も来てくれてありがとう」と言われました。私たちがよく知っている方々から言われただけでなく、私たちが個人的には知らない方々からも、「今年も来てくれたのね。嬉しいわ。」と言われました。そして、展示していた去年の布を見て自分が描いたものが載っていると嬉しそうにいつてくださった方々もありました。大槌町の復興は未だ十分に進んでいるとは言いきれども、それでも前に向かって少しずつ変化していく中で、変わっていく物語をこれからも共有できたらと思いました。



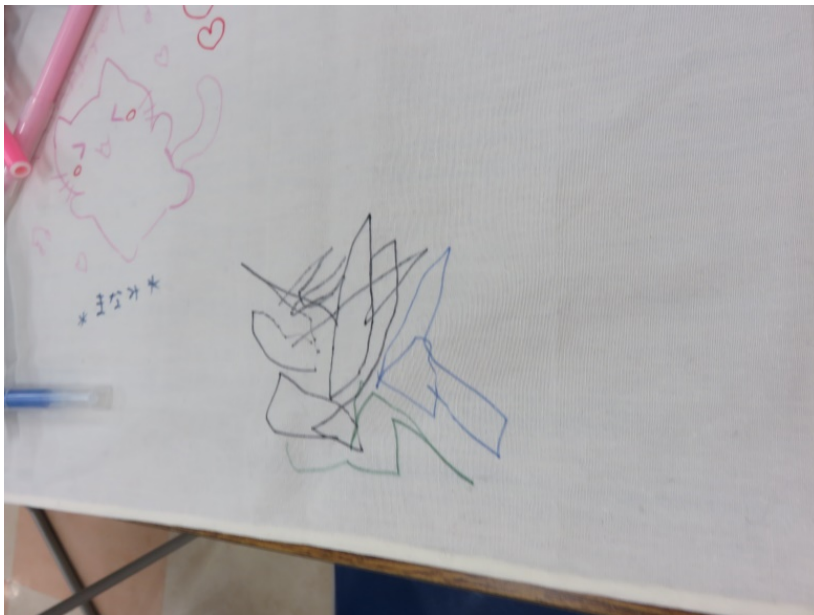


Popoki's Interview

インタビュー者：スイウィにゃん

対象者：ポーポキプログラムへの参加者

私たちは、マストで2月4日に大槌町ポーポキ友情物語を行った。子どもから大人、そして学生まで多くの方がこのプログラムに参加して下さいました。そして、インタビューに応じて下さり、布に描いた思いと一緒に素敵なお話を共有してくれた。個人的に、私は彼らとコミュニケーションをとることが難しかったが、多くの人の助けのおかげで、彼らのお話の意味を理解することができた。みんなたくさんの興味深い絵を描き、そしてその絵を描いた過程を話してくれた。



これを描いてくれたのは、とても小さくかわいらしいAくん?であった。彼は、ユニコーンを元気よく描いてくれた。彼の書いたユニコーンはユニコーンに見えないかもしれないが、彼の一生懸命書いてくれる姿に、私たちは笑顔になった。

ユニコーン



ポーポキと象

これを描いてくれたのは大学生のBさんである。象には津波の被害に遭う前にその危険性を察知し、高い場所に走ったという実話があり、彼女はそれに感銘を受けてこの絵を描いてくれたという。象は先見的に危険を察知する能力があり、丘の上や山の上の方に逃げることによって、それらの被害から逃れようとするようだ。彼女の描いてくれた象はとても美しく細部までこだわって描いてくれた。そして、象の後ろには逃げ切れた津波が押し寄せてきている様子、象の背中には友達としてのポーポキが乗っている。



感謝

Cさんはポーポキフレンズの一人であり、他の市からポーポキに会いに来てくれた。そして、布には、感謝の言葉ありがとうと書いてくれた。そして、彼女は私に、ポーポキが大槌町に来てくれたことがとても嬉しく感謝と幸せの気持ちだと言ってくれた。彼女は、メッセージを描いてくれた後に、ポーポキがどのように見えたかを尋ねてきた。

C：ポーポキは目くばせできる？

私：（笑いながら）いいえ。

C:ポーポキはおへそを持っていると思う？

私：持ってないと思います。



神社の鳥居

Dくんは、このプログラムに参加してくれた最初の参加者である。彼は6歳で、神社の鳥居と神輿を描いてくれた。とても上手に絵を描いてくれ、そして、彼自身素敵な子であった。インクがでなくなっても不満を言わずに書き続けてくれた。

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 105

今月のテーマは、お尻です！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、あぐらをかいて、それぞれの足を上に引っ張りましょう。お尻のストレッチを感じますか？良かったら、体を右へ、左へと倒してみてください。違うストレッチも楽しめます。
 3. 次は、お尻歩き！足を前へのばし、お尻で前進しましょう！
 4. 今度は、お尻歩きで元の位置に戻りましょう！しっぽを踏んづけないでね。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会：3月16日 19:00～ 灘薬剤師会事務所！！！！

NEW!!! 灘区深田町4丁目1-1 JR 六甲道駅南ウェルブ六甲2番街6階
JR 六甲道から歩いて数分



- 2017年4月7日 ポーポキ in 大槌町報告会 19:00～ 神戸学生青年センター（阪急六甲駅から徒歩数分）詳しくは次頁をご参照ください。
- 5月13日 ポーポキミニ平和映画祭 神戸YMCA/神戸YWCAと一緒に！
- 場所は神戸YMCAの新しい会館！14:00～16:00（予定）
- 7月2日 ポーポキ at 灘チャレンジ！



大槌町活動報告会

Report meeting on Otsuchi activities

ポーポキ・ピース・プロジェクトは、2005 年より身体と感性と想像力を使って平和を創造する活動をしている団体です。2011 年からは、岩手県大槌町を訪れて「友情物語」という活動を行っています。

このたびは2017 年2 月3 日から2 月5 日までの3 日間滞在させていただいた大槌町での活動報告会を行います。大槌町のことやポーポキの活動について話し合えればと思います。ご興味がありましたら、どうぞお越しいただければ幸いです。

Popoki Peace Project is an organization emphasizing use of the body, senses, and imagination in creating peace through workshops and other activities from 2005. Since 2011, we have visited Otsuchi-cho, Iwate Prefecture and done activities of Popoki Friendship Story.

Between 3 and 5 February this year we stayed at Otsuchi-cho and did activities. We will report about these activities in Otsuchi. We are looking forward to telling and talking about Otsuchi-cho and Popoki activities. If you are interested in our activities, you are welcome to join us at our report meeting on Otsuchi activities!

日時：2017 年4 月7 日（金） 19:00~21:00

場所：学生青年センター

（神戸市灘区山田町 3-1-1 tel.078-851-2760）

参加費：無料

言語：日本語/英語（通訳あり）

主催：ポーポキ・ピース・プロジェクト

(お問い合わせ・お申込み/ Information and Reservation ronniandpopoki@gmail.com)

会場地図 MAP



Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー : <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange

<http://www.interpeople.or.jp>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO : 66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれないか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きください。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk33web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり 6名がパネル制作」 2008.10.8. 10





私にとってのポーポキ

バシールにゃん

ある日、公園でゆっくり歩いている時にたくさんの子どもが遊んでいるのを見ました。いろんな国の子たちがいました。その子どもたちはいくつかのグループに分かれていました。一つ目の年上の子どもたちのグループは野球をしていました。彼らは野球に夢中になり他の子どもたちのことは目に入っていませんでした。私はしばらくそのグループを見て、次に他のグループは何をしているか見に行きました。二つ目のグループは絵を描くことと自然が好きでした。そのグループの子ども達は花や木、蝶々の名前の当てあいをしたり、空の雲や山の絵を描き始めました。彼らはお互いにその雲はどこから来たのか話しましたが、誰も答えられませんでした。それを年上の子ども達のグループに聞きましたが、答えられませんでした。その後私は、一番年下の子ども達のグループを見ました。絵本を読んでいました。彼らは Dr. Seuss が書いた、ザ キャット イン ザ ハット、ホップ オン ポップ等の絵本を持っていました。その一番年下の子ども達のグループのみんなに、なんでグループによって色々やることが違うの、と聞きました。一人の小さな女の子が、先生が公園へ行って好きなことをしていいよと言ったから、と言いました。彼女は、「私は女の子だから、スポーツをしたくない。あとは虫が怖い。だから自然が好きなグループとは一緒にいけない。本を読んでいる時に、先生が本の中で世界一周をすることができると言っていた。」と言いました。一番年上の子ども達のグループは私達を見ていました。最後にみんなで集まって、今日はどんな日だったかを話しました。ある年上の子供が、今日はバッティングの練習をしたと言いました。自然好きのグループの一人は自然の美しさと静けさを知り、平和を感じたと言いました。一番年下の子供は本を読むことを楽しんだと言いました。「私は人間は自分の出来ることをして幸せになることが大切だと思います。多分私は将来物書きになります。」と小さな女の子が言いました。また、「私は国がバラバラだけど、みんなで一緒に楽しみました。」と言いました。女の子は続けました。「もし私たちの様に違いがあってもみんなが一緒に住むことができると、この世界は美しい場所になります。あなたはこのことに賛成しますか。」私は頷き、周りを見渡し他に誰かこの質問に答えられる人がいないか探しながら言いました。「私はあなたの話にとっても共感します。いい話を聞かせてくれてありがとう。」私は頷き周りを見渡した時、ポーポキを探していました。その時もしポーポキがいたら、その話に参加していたらポーポキは楽しかったのではないかと思います。私はポーポキから学んだ平和の意味を子ども達から再度学びました。その意味は違い(例えば性別、民族、カースト、国籍等)がみんなあるけれど、一緒にいるということです。ポーポキの平和に関する本の中で、ポーポキがした質問を思い出しました。「ある人の平和は他の人の平和と一緒に？」この質問はとても難しいです。でも世界で平和を願う人達がこの答えを探ることが大切だと思います。このことについて、ポーポキは何か私たちにヒントをくれていることでしょう。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!